

2010年度（平成22年度）事業報告

I テニス部門

1. スクール事業

総括

2010年度9月期よりプログラムをリニューアルし、1200名体制構築すべく平日の時間帯変更による増設などに着手した。さらにゲームウィークをはじめとする、レッスン合同開催なども増え、『テニスの輪を拡げる』環境づくりも継続して実施した。

リニューアルにより、質的目標であるニーズを探り、シーズを啓蒙することができた。特に、プライベートレッスンおためしキャンペーンでは、多くのお客様にご利用いただき、お客様のテニスに対するモチベーションの高さを伺えたことは、今後2011年度以降のプログラムの充実と発展につなげる。

数的目標については目標を下回る結果となった。

実績

受講者数月平均982名（目標対比96.9%）

年間売上1億700万（目標対比93.9%）

レギュラー増加が伸び悩んだことが大きな要因であった。2010年度は努力目標に邁進したが、2011年度はあらためて達成できうる目標設定をし、プログラムを活性化できるよう努力する。2011年度は、継続して『世代を越えて、レベルを問わず、テニスの輪を拡げる』環境づくりを目指し、『テニススクールで完結しない』スポーツライフスタイルを提案する。また、これらの方向性がTTCの財源基盤となるよう推進する。

さらに、3つの基本方針、①各部門との連携を強化し、プログラム及びサービスの充実を図る、②テニスコーチングおよびティーチングのスキルアップ、③より明確な収入計画の立案と実行、に基づき、計画を実行する。

コーチ教育プログラム、顧客ファイルを例年通り実施。

プライベートレッスンに対するインセンティブ制度導入により、プロフェッショナルの意識向上に努めた（7月）。

KAZUKO杯、M-1レディースなどにトーナメント運営経験の少ないコーチを起用した。

顧客ファイルの活用→サービスのクオリティアップ

EXCELフォーマットを使用し、すべてPCでの管理を開始。（4月）

3ヵ月毎の定期的な更新に変更。（4月）

PC管理導入により、よりスタッフ間の共有しやすい環境が整備された。

しかし、3ヶ月更新により、更新の遅れが目立ったため、2011年度あらためて徹底したアップデートを推進する。

スクール永年継続表彰を実施（11月）

15年29名/10年33名/7年53名/5年82名/3年162名。

2011年度に20年表彰準備および、すべての賞品をリニューアルする予定。

各種感染症のご案内を告知（1月）

年賀状を送付し、ショップ販売促進につなげた（1月）。

スタッフィングとシフティングの効率化を図る

プログラムリニューアルに伴い、シフトの一部変更を実施（9月）。

実質充足率に基づき、クラスのレベル変更は適時実施した。これについては2011年度より大胆に実行する予定。

レッスンプログラムの変更と継続

「高校生のアダルトプログラム入会」を可能にしました（4月）。

「フリーチケット継続繰越サービス」を開始（5月）。

「車いす振替専用クラス」を通年、月2回程度、日曜日夕方に実施。

プログラムリニューアル（7月告知、9月期より開始）。

（ア）振替制限の廃止（4回振替可能）。

（イ）割引制度の充実（家族割引、複数受講割引）。

（ウ）平日レッスンの充実（時間帯の変更）。

（エ）超初心者“LOVE”クラスを新設。

ゲームウィーク開催（7月、3月）。

LOVE、1Dを中心としたクラスでグリーンボールを積極的に使用した。

1200名態勢を構築する

プログラムリニューアルを実施（9月）。

プライベートレッスンを一部（40分を30分に）改正（6月）。

フルタイムコーチに対し、プライベートレッスンのインセンティブ制度を開始（7月）。

プライベートレッスンおためしキャンペーン「MORE…」を実施（11月）。

a) 11/2にPL DAY開催、107件（30分単位）実施。

b) 11月で、447件（利用者124名）実施、49万売上。

キャンペーン・イベント・トーナメントの企画と実施

M-1レディースを年間6回開催（雨天中止4回）。

合計44組（平均11組）参加。合計19万（平均5万）売上。

東京大学テニス講習会コーチ派遣（5月、10月）担当：小林・山口・古谷。

柏市テニス協会主催のテニス講習会コーチ協力（5月、10月）担当：山口。

フリーチケット「増量」キャンペーンを年3回実施。

c) 春 フリー4：111枚、フリー8：49枚、合計160枚。

- d) 秋 フリー４：８４枚、フリー８：３９枚、合計１２３枚。
 e) 冬 フリー４：７０枚、フリー８：４３枚、合計１１３枚。
 新規入会および友達紹介キャンペーンを年２回実施。非会員対象。
 f) ３～５月 体験者９８名、入会者５３名、紹介者２２名。
 g) ９～１１月 入会者４４名（非会員）、紹介者３１名。
 退会者へ入会特典付きDMを発送。６月６１通、１１月７６９通。
 「CHANCE」キャンペーン実施（１０～１１月）。既会員対象。
 h) ９～１１月 追加４６名。
 「生涯スポーツ応援プログラム」開始（１１月～）。
 i) 千葉県福祉ふれあいプラザとの共同事業。参加者数 １期：４名、２期３名。

プロモーションの企画と実施

「体験カード」を通年のサービスとして導入開始（４月）。体験無料、紹介者レッスン１回無料。
 「かしわオープン」にて、体験カード配布（１０月）。
 適時、総務部門と連携し、ホームページとサービスエースに様々な情報を更新した。

添付資料

資料A：2010年度 アダルト獲得人数実績表

資料B：2010年度 スクール事業経営実績表

2. Le Club TTC

1. 新規賛助会員

45名獲得(目標50名。目標対比90%)

テニス部門での人数を達成できなかったのが大きな要因。コーチングスタッフによって意識の偏りがあり、獲得人数にもばらつきがあった。

2. 練習会

9月期よりコマ数を増やし、参加者の増加を狙ったが、結果にはつながらなかった。練習会の存在意義を、クラブメンバーに再度浸透させる必要がある。

収入

2009年度	6.343.000円	月平均53万円	参加人数4842人
2010年度	4.786.000円	月平均40万円(前年比75%)	参加人数3531人

3. TTC 外部トーナメント

- ・ 柏市クラブ事業所対抗

2～3月と8～9月の日曜日を中心に、一般男子A・B・Cグレード、一般女子Aグレードにエントリーして各レベルに残留。

4. ツアー交流会

- ・津幡交流会

4月24日(土)参加者24名(スタッフ3名含む)。韓国は不参加だったが、バトルダブルスによる試合と、ビュッフェスタイルでのパーティで盛り上がった。

- ・木更津ぽんぽこ大会

7月12日(月)2チーム12名参加(スタッフ1名含む)。木更津市営潮浜公園コートにて行われた。平日開催で集客には苦労した。参加者のなかに、勝ちに対する意識が出始めた。

- ・津幡ツアー

8月21(土)、22(日)。第5回開催。9名参加(スタッフ1名含む)。津幡側のスケジュールに合わせる為、集客が困難であった。TTCチームの男女比がアンバランスであったが、津幡の協力を得てチームを作り、試合が出来た。

- ・韓国ツアー

第6回、11月20日(土)～23(火)、12名参加(スタッフ2名含む)。事前準備等がしっかりでき、交流会は大成功だった。今後、若年層からの集客を視野に入れる。

3. ジュニア普及プログラム

生徒数実績

2009年度平均702名に対して2010年度は平均668名実数でした。

クラス別獲得人数実績については、月平均でK79名、Y202名、C213名、H174名した。

月会費収入においては、2009年度対比で減少しました。家族割引が9月より適応も減少要因のひとつと考えられます。

2010年度 月平均 3,452,932円

2009年度 月平均 3,616,248円

1. カテゴリー変更について

各クラスの 카테고리変更を3月1日(火)から受付開始。2010年10月から、随時カテゴリー変更を進めていたこともあり、4月期以降では、YからCへ42名、CからHへ19名、計61名という対象人数を昨年度より減少できたこともあり、移行がスムーズに行えました。

2. おはようキッズ、パパママテニスについて

今年度のおはようキッズの参加者数最大で月352名、最低154名、月平均262名で推移しました。ピョピョからおはようキッズへの取り込みがスムーズに進んだことと、体験者へのフォローがレッスン直後に行われ、当日購入者が増えたことが平均人数増加の要因としてあげられます

3. ジュニアイベント/トーナメントについて

① チャレンジマッチ

開催数 6回(3月は震災の為中止)

参加者数合計 116名 参加者数平均 19名

② 錬成会

開催数 7回 参加者数合計 124名 参加者数平均 18名

③ ピヨピヨ親子ショートテニス教室

開催数 3回 参加者数合計 363名

④ オレンジボール大会

開催数 1回 参加者数 15名

4. 外部活動について

① 花野井小学校クラブ活動

開催数 10回 参加者数平均 15名

② 柏市親子ショートテニス巡回教室

開催数 6回 参加者数平均 20組 派遣スタッフ 3名

③ 市川ショートテニス教室

開催数 3回 参加者数 15名

4. 選手育成事業

1) フューチャーズプログラム

2010年度の目標達成状況

I. Performance

○Chiba Jr.2010年3月

・千葉ジュニア出場者数

43名、シングルス 42名、ダブルス 38名 (31組)

*昨年の低年齢の選手の関東ジュニア出場権獲得者は9名と多かったが、今年は

さらに増え12名であった。また、上位進出者 (best4以上) も昨年の15から20と増え、ほとんどのカテゴリーで優勝争いができた。

チームのレベル底上げを目標に基本の徹底を行ってきた効果がみられた。

○Kanto Jr. 2010年7月

・関東ジュニア出場者数

目標: 25名、実績: 延べ44名 (実数 25名)

・出場者年度比較

昨年度 延べ 29 名（実数 19 名）→今年度 延べ 44 名（実数 25 名）

・Best8 以上進出者年度比較

昨年度 7→今年度 13

*タイトルこそなかったが、上位進出者(best8 以上)が前年度より大きく増えた。

課題としては、まだハードコートでのフットワークで試合を行なっている選手がほとんどであった。

しかし、体力やスタミナの向上が見られ(走り負けないテニス)、ランニングやフィットネスをフィジカルの強化を中心に行なってきた効果はみられた。

○All Japan Jr. 2010 年 8 月

・全日本ジュニア出場者数

目標：15 名、実績：延べ 26（実数 16）名

・出場者年度比較

昨年度 延べ 12 名（実数 8 名）→今年度 延べ 26 名（実 16 名）

・Best16 以上進出者年度比較

昨年度 9→今年度 14

U18 男子 ダブルス：準優勝 松森裕大/蜂谷、best8 小林烈/竹内、
best8 一藤木良平/嶋田

U18 女子 シングルス：best16 金子真理子、
ダブルス：3 位 金子真理子/藤岡希

U16 男子 ダブルス：best16 吉田元樹/鈴木

U16 女子 シングルス：準優勝 小和瀬望帆
ダブルス：優勝 小和瀬望帆/尾崎、3 位 中山未紅子/澤柳

U14 女子 シングルス：優勝 古川真実、best16 荒川夏帆

U12 男子 ダブルス：best8 神田留尉/種市

U12 女子 シングルス：3 位 村松千裕
ダブルス：準優勝 村松千裕/藤岡佑

*全日本 Jr 出場者、上位進出者(best16 以上)ともに前年度より大きく増えた。そして、決勝進出は 5 つ、そのうち優勝は 2 つであった(前年は決勝進出 1 つ、優勝 1 つ)。

出場者数、上位進出者数ともに全国トップの数字であった。

また、全国大会という独特の雰囲気でも舞い上がることなく、いつも通りの練習、準備、そして試合を行なうことができメンタル面での成長を感じた。練習で取り組んできた「Reach your max」と基本の徹底がこのどっしりとしたメンタルにつながった一つの要因だといえる。

○National Jr Tournaments.

・全国大会出場者数

昨年度 15 名→今年度 18 名

・全国大会（全日本 Jr 以外）での主な成績

<トヨタ Jr (U16) >4月

女子シングルス：優勝 小和瀬望帆

<ダンロップ全国選抜 Jr (U14/12) >5月

女子シングルス：(U14)準優勝 古川真実、(U12)優勝 村松千裕

<全国小学生大会>7月

女子シングルス：best4 村松千裕

<インターハイ>7,8月

男子ダブルス：best4 松森裕大/蜂谷

女子ダブルス：best4 金子真理子/藤岡希

<全国中学生大会>8月

女子シングルス：優勝 千村夏実

女子ダブルス：3位 千村夏実/清原由衣

*今年度は3つの全国タイトル(全日本 Jr を加えると5つ)を獲得することができた。これは過去最高の数字である。例年、全国タイトルは小和瀬姉妹(望帆,麻帆)が中心であったが、今年度は小和瀬望帆以外にも3名(千村夏実、古川真実、村松千裕)の選手が全国のタイトルを獲得することができた。

○ATP, WTA, JOP, JPTA, Tournaments.(主な成績)

<10月 柏オープン>

シングルス：1R 一藤木良平、予選 2R 白井卓也

<5月 久留米国際女子>

シングルス：予選 2R 馬場早莉

<7月 昭和の森国際女子>

シングルス：本戦 1R(予選突破) 馬場早莉

<10月 全日本選手権>

シングルス：C 予選 2R 馬場早莉、ダブルス：A 予選 1R 松森裕大/蜂谷

<4月 JOP 白子オープン スプリング>

シングルス：Best4 中山未紅子、Best8 金子真理子

<4月 JOP 東京国立オープン>

シングルス：優勝 一藤木良平

<5月 JOP 秩父オープン>

シングルス：準優勝 一藤木良平、ダブルス：優勝 一藤木良平/喜多

<5月 JOP 大磯オープン>

シングルス：優勝 一藤木良平

<10月 JOP 栃木宇都宮オープン>

シングルス：準優勝 藤岡希

<11月 JOP グリーンカップ埼玉オープン>

シングルス：優勝 小和瀬望帆、best8 中山未紅子

○ITF Jr. Tournaments (ITF ジュニア大会へのチャレンジ)

・ITF Jr ランキング

小和瀬望帆 昨年度 157 位(3 月末) →今年度 25 位(11 月末現在)
吉田元樹 昨年度 1225 位(3 月末)→今年度 958 位(11 月末現在)
馬場早莉 昨年度 1203 位(3 月末)→今年度 1352 位(11 月末現在)
中山未紅子 昨年度 1308 位(3 月末) →今年度 1420 位(11 月末現在)
木村優子 昨年度ランキングなし →今年度 1988 位(11 月末現在)
千村夏実 昨年度ランキングなし →今年度 1506 位(11 月末現在)
本郷智伎 昨年度ランキングなし →今年度 1590 位(11 月末現在)

*今年度新たに 3 名のランキングポイント取得者が増えた。TTC 主催で引率する ITF Jr 大会(フィリピン)も今年度から再開し、ITF Jr へ参加する意識(海外に視野を広げる)選手やご父母が増えてきた。こういった機会から国内レベルから海外でも通用するようなオールラウンドでスケールの大きいテニスに意識を向けていきたい。

小和瀬望帆に関しては、今年度大幅なランクアップをし、来年度のすべてのグランドスラムジュニアの本戦出場が見えてきた。来年度ではそのステージで勝つべくさらなるレベルアップが必要である。

・ITF Jr トーナメント(参加者、主な成績)

<3,4 月 ITF Japan Open Jr G1 (名古屋)>

参加者(3 名) : 吉田元樹、小和瀬望帆、馬場早莉
ダブルス : 優勝 小和瀬望帆

<5 月 ITF Jr India G2、GB1(インド)2 大会>

参加者(1 名) : 小和瀬望帆
シングルス : (1 週目)best8, (2 週目)優勝 小和瀬望帆
ダブルス : best4 小和瀬望帆/加藤

<6,7 月 ITF Jr Europe tour G1(オランダ)(ドイツ)(オーストリア)、G4(チェコ)4 大会>

参加者(1 名) : 小和瀬望帆
シングルス : (チェコ)best4 小和瀬望帆
ダブルス : (オランダ)best8 小和瀬望帆/LANCHUK,Olga(UKR)
(チェコ)準優勝 小和瀬望帆/FONTANAROSA,Ines(FRA)

<10 月 World Super Jr GA(大阪)>

参加者(4 名) : 吉田元樹、小和瀬望帆、木村優子、千村夏実
シングルス : 準優勝 小和瀬望帆
ダブルス : best8 小和瀬望帆/尾崎

<11 月 ITF Jr Korea GB1(韓国)>

参加者(1 名) : 小和瀬望帆
ダブルス : 優勝 小和瀬望帆/尾崎

○National team. Tournaments

<Junior Fed Cup (U16 国別対抗戦) アジア/オセアニア予選 2010.4/26～5/2>

小和瀬望帆出場：優勝

<Junior Fed Cup (U16 国別対抗戦) 2010.9/28～10/3>

小和瀬望帆出場：13位

II. The number of player in Futures program

2010年4月の籍者数は47名。

2010年12月の在籍者数は43名（12月現在）。

III. Tennis Camp, Special Practices

テニスカンプ、通常練習以外の練習

①強化練習会、トレーニング

・北軽井沢キャンプ 8月18日～21日

参加者：40名(TTC15名,外部25名)

・白子キャンプ(2回) 6月26日～27日、11月27日～28日

参加者：6月31名(TTC30名,外部1名)、11月23名(TTC19,外部4名)

・北信越交流会(2回) 5月14日～15日、12月17日～18日

参加者：北信越4名

IV. Education to Futures Class player and their parents

フューチャーズの選手とその父母に対する教育

Players & parents General Meeting, Information to players & their parents.

選手/父母全体ミーティング、選手/父母向けインフォメーション

・ジュニア全体ミーティング、父母会、分科会(4月17日)

・アンチドーピングセミナー(4月)

・全国選抜ジュニアにおけるシンポジウム(5月21日)

・ジュニア全体ミーティング、父母会、分科会(9月11日)

・リチャード・ショーンボーン氏によるオンコートオブザベーション(11月16日)

・ジュニア全体ミーティング、父母会、分科会(1月)

・上海 Camp ミーティング(3月)

・フィリピン遠征に向けてのミーティング(11月)

・白子キャンプにおいて夜のレクチャー(6月,11月)

・雨の日に選手向けにレクチャー(雨の日随時)

・低年齢対象ビデオチェック後、テクニクミーティング(5月)

(3) レベルアップコース

2010年度レベルアップコース実績

在籍人数

18名

2年生 男子1名 女子0名

3年生 男子4名 女子5名

4年生 男子5名 女子3名

4月からの新規入会者数

10名

MFA受講者数

0名

キャンプ参加者数（レベルアップ参加人数）

① スプリングキャンプ	5月 29日	28名	(11名)
② サマーキャンプ	7月 10日	31名	(8名)
③ オータムキャンプ	11月 3日	31名	(12名)
④ ウィンターキャンプ	12月 11日	23名	(3名)

ブリテッシュヒルズキャンプ参加者数

1月8～10日 14名

北軽井沢キャンプ参加者数

レベルアップからの参加者 10名

L-u-p キャンプ参加者数

6月12-13日 15名

10月 2-3日 17名

筑波山トレーニング

9月26日 15名、選手家族（17名参加）

全体ミーティング開催回数（3回）

①4月3日（参加者数30名）

・指導方針・チャレンジシートの活用・グリーンボールの使用・年間スケジュール

②6月26日（参加者数23名）

- ・夏の大会に向けて・夏の食事・北軽井沢キャンプ

③9月11日（参加者数39名）

- ・Futuresの方向性・コーディネーションについて・筑波山トレーニングについて・オレンジボールの有効性
- ・ブリティッシュヒルズキャンプについて

ボールキッズ参加者数

全国選抜ジュニア	14名
柏オープン	4名（メインはフューチャーズ）
NECマスターズ	13名

フューチャーズテスト受講者数

①4月 1名 ②9月 0名

フューチャーズへの昇格

①4月 1名 ②9月 0名

総評

所属人数も増え、L-up キャンプ（TTC 内の宿泊）、筑波山トレーニングと活動を大きく広げることができた一年となった。このようなイベントによる共通体験を通じて、選手・親御さんとコミュニケーションをさらに深くすることができた。また、低学年に対してオレンジボールを導入し「Play+Stay」に沿ったレッスンも行う事ができた。

レッスン

グリーンボールの練習が選手・親にも浸透し効果を上げた。さらに9月からはオレンジボールをキャリアの浅い低年齢を中心に導入した。親に多少の動揺があったがMTや各担当コーチによるコミュニケーションを通じてご理解をいただいた。雨天時にはオンコートとレクチャーに分かれ、テニスの知識を深めることや、ロジカルシンキングのレクチャーを行い、さらなるテニスの理解を進めた。

システム

L-up への進級の手続きは経理との協力を得てスムーズにできるようになった。

スケジュール

問題なく進めることが出来た。祝日でアダルトレッスンが休講の場合は、多くのコートの使用や時間を増やすなど、できる範囲での練習のアレンジを行った。また、ジュニアキャンプ時はコーチのスケジュー

ールを考えて休講にしたが、特に問題は起こらなかった。

(4) 車いすテニスプログラム

2010 年度実績

- ① 選手成績一覧 (別添用紙)
- ② 選手ランキンギー覧 (別添用紙)
- ③ 国枝選手年間ランキング 1 位
- ④ 深山・古賀選手 JWTA マスターズ出場
- ⑤ ジュニア育成

①②③

今年度も選手たちの活躍を多いにみられた年となった。国枝選手の 3 年連続世界ランキング 1 位やグランドスラム優勝もさることながら、斎田・藤本両選手も十分な成果をあげることができた。斎田選手は今年度シングルス 5 タイトルとダブルス 6 タイトルの計 11 タイトルを獲得し、年末の世界マスターズに単複ともに参加することができた。藤本選手はダブルスで 4 度の優勝を飾り、世界マスターズに初出場を達成、シングルスにおいてもランキング 16 位を保持した。

また、2010 年 6 月より、島根県出身の三木拓也選手がプログラムに入会し練習を開始。若手の有望株として来年の飛躍が期待される。

④

昨年度に引き続き、目標であった深山・古賀両選手の JWTA マスターズ出場を達成。担当の山倉コーチ、池ノ谷コーチとの日々の練習が結果につながった。本間選手もマスターズ出場を目指したが、残念ながら届かなかった。しかし、今年度も精力的に世界を転戦し、ITF ランキング 39 位に位置している。

⑤

土曜の朝のジュニアクラスは現在、5 名の子供たちが在籍しており、順調に育っている。13 歳の根岸紘未は大会に出場できるレベルまで到達し、経験を積むことができているので、今後の更なる成長が楽しみである。他の 4 名も自分のペースで楽しくテニス続ける事ができており、このクラスがさらに活気づいていくことを期待したい。

キャンプ関係

1. TTC 車いすオープンキャンプ

日 程：3 月 27 日 (土) テニス/3 月 28 日 (日) 午前中フィットネステスト

対象者：受講したいプレイヤーおよびコーチ

スタッフ：丸山・稲葉・山倉・池ノ谷・ホルスト・高橋・加藤

アシスタント：斎田・藤本・竹田

参加者：選手 18 名

10 年目の今年は、関東車いすテニス協会と千葉県車いすテニス協会との連携がスムーズにいき参加者が

増えた。また、ワールドチームカップ出場メンバーも参加することができ、幅広いレベルのキャンプとなった。

2. TTCプレイヤーズ対象のCamp

〈強化キャンプ〉

日 程： 1月11日～ 15日 (TTC)
3月1日～ 5日 (TTC)
3月29日～ 4月2日 (TTC)
6月14日～ 18日 (TTC)
10月18日～ 22日 (TTC)

時 間：Tennis 7:00～10:00(インドア) Fit11:00～12:00 Tennis14:00～15:30

対象者：斎田悟司・国枝慎吾・藤本佳伸

コーチ：丸山弘道・ホルスト・大高優・山倉昭男

今年度においては、ほぼ全日程を全ての選手が参加することができ、充実した内容のキャンプとなった。各キャンプの目標・目的を明確に設定することによって、レッスンの質や選手の集中力をより高めることができた。

〈アン・クイン キャンプ〉

日 程：2010年4月15日～20日

対象者：国枝慎吾・藤本佳伸・本間正広

コーチ：丸山弘道・ホルスト・大高優・山倉昭男

通 訳：吉田仁子

アン・クイン氏を迎え、ビデオレッスン、個人面談を中心に行ない、より最新の情報を選手・コーチともに得ることができた。来年度は1～2回程度のキャンプを実施予定。

ツアーへの同行

- ① AUSオープン (オーストラリア) 1月28日～31日 (優勝)
- ② ジャパンオープン (福岡) 5月19日～24日 (優勝)
- ③ WTC (トルコ) 7月27日～8月2日 (16位)※JWTAより派遣
- ④ ローランギャロス (フランス) 6月3日～5日 (優勝)

今年度もWTC以外は、全ての同行大会において「優勝」の結果を出すことができた。WTCにおいては、国枝・藤本両選手の怪我、斎田選手の他大会参加という理由により、ベストメンバーで戦う事ができず、悔しい結果となった。しかし、大高コーチが初めてWTCに帯同し、大きな経験を積むことができたので、今後のコーチングに非常に良い影響となった。

表彰

第2回ヤマハ発動機スポーツ振興財団 スポーツチャレンジ賞

プレゼンターとして表彰式に参加 (丸山) 於：ヤマハリゾート 孺恋

インターンシップ

10月25日～30日の1週間、韓国車いす協会より2名のコーチがTTC車いすプログラムを見学した。実際にオンコートでの実技やセミナーは行わず、レッスンの見学やTTC選手・コーチとのミーティングがメインであった。海外からのコーチ研修は初めてであり、今後もこのようなケースが増えていくことが予想される。

5. フィットネス

2010年度のレビュー（2010年4月～2011年3月）

2010年度の主な業務は、フューチャーズプログラム、プレイヤーズプログラム、レベルアップコース、車いすテニス選手のフィットネスレベルをより向上させることである。

普及プログラムに対してのフィットネストレーニング)やTTC研修プログラム、TTCの特別なイベントを行った。

フューチャーズプログラム

- ・1週間に平均22.5時間フィットネストレーニングの指導を行い、加えてトレーニングの準備や分析を行った。全ての選手が1週間で平均5時間行った。
- ・今年度は、トレーニングの準備期には腹筋を中心にコアトレーニングを重点的に行った。また、トーナメント期に近づくにつれてスピード・アジリティの強化を行った。その期分けが機能して、身体のコンディションも増し、テニスのパフォーマンスアップにつながった。
- ・春（4月6日～10日：42名）と秋（8月31日～9月4日：35名）にフィットネステストを行った。テスト終了後、コーチ、選手にフィードバックを行った。

フィットネステストで特筆すべきものは、今年の春の結果が、過去の記録と比較して今までで一番良かったことである。4.0以上の選手の数が過去最多（24名：57.1%）であるのを始め、半分以上の選手が（22名/42名中）自己最高の結果を記録した。この結果は、昨年度から継続してきたトレーニングの成果である。

- ・フューチャーズプログラムプレイヤーのためのフィットネスキャンプ。
- ・9月26日－フューチャーズ、レベルアップ選手のための筑波山トレーニングキャンプ（登山2往復）。参加者69名：フューチャーズ選手29名、レベルアップ選手15名、兄弟3名、ご父母22名（昨年：フューチャーズ選手25名）
今年で3回目になるが、初めてレベルアップ選手も参加（登山1往復）して行った。
今年のご父母の参加も多く、チームとしての一体感を感じるいいキャンプであった。

レベルアップコース

- ・週6日（月～土）にフィットネストレーニングを行った。出席人数は平均10.9名（昨年度 7.5名）
- ・4月と9月にフィットネステストを行い、その結果を選手とその親にフィードバックした。
- ・コーディネーションチャレンジシートをフィットネストレーニングの時間以外に活用した。

- ・レベルアップもフューチャーズ同様、基礎体力強化として、スタビライゼーションなどのコアトレーニングとランニングは継続して行っている。
- ・今年は新しい選手が増えたので、グループトレーニングを通してのコーディネーション強化に時間を割いた。

コーディネーション教室

昨年までの重複受講者対象のフィットネスを参加者の限定をなくし、有料とした。内容はコーディネーションの要素を前面に打ち出し、教室対応のチャレンジシートも新たに作成した。

- ・5回で2,000円のスタンプカード制。
- ・毎週月曜日～土曜日（17：35～17：55）

平均人数 4.0人

エキストラプログラム

エキストラプログラムの所属選手に、1週間に平均3時間のトレーニングを行った。

プレイヤーズプログラム

プレイヤーズプログラムに属する選手のフィットネストレーニングを行った。そして、ツアー中のトレーニングメニューをアドバイスした。

プレイヤーズプログラムの選手は、コーチの指導の下、フィットネストレーニングを行った。

	<u>2010年度</u>	<u>2009年度</u>
・松井 俊英	24回	21回
・岩見 亮	18回	28回
・綿貫 裕介	80回	4回
・小野澤 新	29回	0回
・小和瀬 望帆	75回	0回
・藤岡 希	15回	0回

車いすプレイヤーズプログラム

4月から3月まで、車いすプログラムプレイヤーズに、グループとプライベートによるフィットネストレーニングを行った。

<u>A-カテゴリー (A)</u>	<u>2010年度</u>	<u>2009年度</u>
・金曜日グループ	29回	28回
<u>プライベートトレーニング</u>		
・斎田 悟	71回	69回
・国枝 慎吾	90回	97回
・藤本 佳伸	59回	46回

<u>B-カテゴリー (B)</u>	<u>2010年度</u>	<u>2009年度</u>
・本間 正広	78回	95回
・深山 知美	65回	72回 (昨年度は PL)
・古賀 貴裕	77回	70回 (昨年度は PL)
・三木 卓也	107回	0回

その他のプライベートレッスン (PL)

TTC の選手、顧客、TTC 以外の選手にプライベートフィットネストレーニングを行った。

2010年度 193回 2009年度 204回

クレサントチーム選手のためのフィットネストレーニング (毎週金曜日)

6名 97回

トレーニングキャンプ

キャンプにおいて準備とフィットネストレーニングを行った。

- ・5月29日 TTC ジュニアスプリングキャンプ 参加者 26名 (昨年度 22名) 担当：古澤。
- ・6月12日-13日 レベルアップお泊りキャンプ 参加者 15名 担当：古澤。
- ・7月10日 TTC ジュニアサマーキャンプ 参加者 31名 (昨年度 29名) 担当：古澤。
- ・8月18日-21日 北軽井沢キャンプ 参加者 41名 担当：高橋、古澤。
- ・10月2日-3日 レベルアップお泊りキャンプ 参加者 17名 担当：古澤。
- ・11月3日 TTC ジュニアオータムキャンプ 参加者 31名 (昨年度 18名) 担当：古澤。

アダルト、ジュニアプログラムと顧客に対するサポート

- ・TTC ジュニアフィットネステスト参加者 440名、3才から18才まで (昨年度 473名)。
- ・アダルト、シニアの顧客に対するプライベートフィットネストレーニング 7名 (昨年度 6名)。
- ・車いす普及プログラムのためのフィットネストレーニング、日曜日グループ 34回 (昨年度 35回)。

その他

- ・フィットネスルーム利用回数 (一般：名簿記入者) はトータル 355名 (昨年度 399名)。
(最近名簿記入をしない人が増えているので、正確な人数の把握はできていない。)
- ・5名にフィットネスルームの使い方を説明した (昨年度 6名)。
- ・TTC スポーツデイ (7月12日) 参加人数 65名 (昨年度 76名)。
- ・バイスクルツアー (4月4日) 参加人数 44名 (昨年度 25名)。
- ・ファンラン (2011年2月13日) 参加人数 0名 (雨天中止) (昨年度 44名)。
- ・あそびの日 8回 (雨天中止 2回) 行われた。平均参加人数 29.3名 (昨年度 23.1名)。

フィットネス部門の売上について

- ・フィットネス部門単独の売上 1,100,550円 (2009年：1,179,750円)

昨年と比べてほぼ同じであるが、今年は昨年プライベートトレーニング（PL）をしていた車いす選手がプログラム対応になるなど、約 350,000 円（336,000 円）が見込みより減少している。さらに、プレーヤーズプログラム選手が増えているので、実際の売上に反映されないトレーニングが 373 回増加している。（下記参照）

プレーヤーズトレーニング総数 788 回 昨年度 415 回 （+373 回）

プライベートトレーニング総数 193 回 昨年度 373 回 （-180 回）

計 981 回 昨年度 788 回 （+193 回）

PL の売上が減少した分は、新たに有料となったコーディネーション教室の売上（403,200 円）で補填され、昨年度と同じ水準になった。

6. スポーツケアルーム

【ケアルーム利用回数】…821 件

- ・ プレーヤーズ 135 件
- ・ フューチャーズ 271 件
- ・ 車いすテニス 127 件
- ・ 外部 87 件
- ・ スクール 1 件
- ・ プライベート 200 件

●プレーヤーズプログラム 135 件

【活動状況】ベテランにはサポート中心。若手には選手教育も含めながら対応した。

岩見選手…6 月より腰椎ヘルニアを始発し、2 ヶ月間リハビリに専念。全日本選手権ダブルス優勝。日本リーグ優勝に輝き現役を引退。

松井選手…左膝と右腰の痛みで悩まされた 1 年であった。アジア大会団体 3 位。

綿貫選手…背中と左下肢の問題が出たが、パフォーマンスの制限にはならなかった。

小ノ澤選手…これまでコンディショニングを行ってこなかったために、サポートの成果が大きい。

- ・ トーナメント帯同

全日本選手権大会 2010/11/1（月）～2010/11/7（日）

一度に選手を 4 人担当することになったが、ホテルの部屋をケアルームとして予約制にしたことと、優先順位付けの共通理解を前もって選手と話し合っていたことで、大きな混乱もなくサポートできた。

京都チャレンジャー 2011/3/4（金）～2011/3/10（木）

予選からの帯同であった。松井選手に関しては体のリハビリに大きく貢献できた。全体的に戦績にはつながらなかった。

●ジュニアプログラム 270 件

【活動状況】

過去 3 年間傷害の発生率は低い水準で推移している。特に毎回のフィットネストレーニングの中で、体幹プログラムをレギュラー化したため腰痛患者は極めて少なくなった。しかし、体幹プログラムを行っていても腰痛になるタイプの選手意は治りにくくアプローチが効かない事が多かった。単純ストレング

スだけではなく、さらに踏み込んだ評価システムの構築が必要。

卒業生が夏の大会が終わり、次なる目標に向かって再スタートしたところに怪我をする傾向がここ3年で増えてきている。プログラム化が進んできている半面、選手教育に課題が残る。

- ・トーナメント帯同

関東ジュニアの一部（10/7/18～10/7/21）

全日本ジュニア（10/8/9～10/8/15）

- ・ メディカルチェック…10/4/30 および 10/5/1 福林医師
…10/10/6 及び 10/10/7

対象者は関東ジュニアシングルス出場 14 歳以上及びデイトムプラクティス参加者。

●車いすテニスプログラム 127 件

- ・ 藤本選手はコンスタントにマッサージを受けている。
- ・ 斉田選手は右肘の伸展傷害とばね指の治療が主であった。
- ・ 国枝選手は冬季に右ひじの痛みが再発したが練習や試合を中断することなくプレーできている。右腰痛と坐骨神経痛が出はじめている。キッコーマン総合病院田中医師と連携してケアしてきた。
- ・ TTC トレーナーが 2010 年広州アジアパラリンピックにナショナルチームトレーナーとして帯同。
(2010.12.8～2010.12.21)

外来・一般

- ・ プライベート（有料ケア）… 200 件 入金 979400 円
- ・ 全国選抜ジュニアオフィシャルトレーナー 2010 年 5 月 20～23 日
利用者数 延べ 24 名
- ・ 柏オープンオフィシャルトレーナー 2010 年 10 月 9 日～10 月 17 日
利用者数 延べ 79 名
- ・ JWTA オフィシャルトレーナー 2010 年 12 月 3 日～12 月 5 日
利用者数 延べ 8 名

● 応急処置関係

- ・ 40 時間研修テストのためコーチの応急処置テストを今年を行わず。
…応急処置対応に不備が出てきている。危機管理意識の維持には不可欠なものであり、来年度の 40h テストの中にももれなく組みこまなければならないと痛感した。

● MFA 講習会…2010 年度はレギュラーの講習会を 4/4、6/19、9/18、12/11、2/26 と 5 回開催した。

また新たに臨時講習会を 3 回予定し 2 回開催した。(2/9,3/30。3/12 は震災で中止) 開催した。

延べ認定数が 385 名になった。

- ・ 現在アクティブなスタッフ 48 名
- ・ 現在アクティブなフューチャーズ父母 20 名

● 執筆

投球傷害のリハビリテーションとリコンディショニング 山口光圀編 文光堂 2010.11.7

「テニス肩・テニス肘に対するリハビリテーション・リコンディショニングの実際」

pp.203-217 担当執筆

● プレゼンテーション

- ・全国選抜シンポジウム 「テニスの年代別スポーツ傷害の傾向と対策」 2010.5.21
- ・TTCフェスタ 「テニスにおける傷害予防のためのトレーニング」 2010.9.23
- ・40時間研修講師 「スポーツ傷害を予防しパフォーマンスを引き出す上部コアと下部コアの解剖学的理解」

● トレーナーの研修

- ・2010年11月30日「クロスフィット」講習会。

7. 指導者育成事業（研修部門）

A. スポーツ科学セミナーとスポーツセミナー

(1) スポーツ科学セミナー

第24回TTCテニス指導者のためのスポーツ科学セミナー

テーマ：「ジュニアステージ後半のための現代的テニストレーニング」

講師：リチャード・ショーン・ボーン ドイツ

開催日及び

参加人数：2010年11月13日（土）関西会場 江坂テニスセンター 41名

11月14日（日）北信越会場 八尾町コミュニティーセンター 82名

11月17日（水）関東会場 TTC 106名

11月18日（木）関東会場 TTC 106名

11月21日（日）九州会場 グローバルアリーナ 49名

11月23日（火）東北会場 天童市総合運動公園 76名

備考：今年度はアメアスポーツから特別協賛減額オファーがあり、また大塚製薬の協賛が終了した。セミナー自体は講師のネームバリューも手伝って盛況であった。

(2) スポーツセミナー

スポーツセミナー1

日程：2010年6月20日（日）

テーマ：Play & Stay を導入した経験

講師：松田佑介氏 参加者：35名

備考：周囲のPlay & Stay への関心が高いことが伺えた。講師は初めての経験とは思えないほど堂々としており、プレゼンテーションスキルの高さが目立った。

スポーツセミナー2

日程：2011年2月20日（日）

テーマ：広告からは分からないサプリメントの実際

講師 : 谷野豊氏 参加者 : 33名

備考 : JTA のカンファレンスと日程がぶつかってしまったため、集客に苦戦した。内容は研究結果に基づいたすばらしいものであった。

B. クリニック／キャンプ／シンポジウム

1. 全国選抜期間中教育プログラム

テーマ : 世界で戦うために必要なこと
: 障害予防のために

参加者 : 130名以上

日程 : 2010年5月21日(金)

講師 : 桜井隼人 JTAナショナルコーチ
: 安見拓也 TTCトレーナー

備考 : 桜井氏からは世界を転戦する上で必要になる準備や考え方について、海外遠征の事例を元にプレゼンがなされた。参加者の中には当事者も含まれていて年々セミナーが身近なものになっている事が感じられた。安見からは2008年のテニス国際医学会で発表した原稿を元に、各年代で起こりやすい傷害の特徴と予防法についてプレゼンがなされた。

2. J W T A マスターズ期間中のクリニック

日程 : 2010年12月4日

担当 : テニスコーチ、フィットネススタッフ

リーダー : トーナメントディレクター、テクニカルディレクター

C. インターンシップ

テーマ : 車いすテニス研修

期間 : 2010年10月25日(日)～30日(土)

参加者 : 韓国テニス協会コーチ2名

参加費 : 15万円/人

D. スタッフ、メンバーの教育

1. TTCコーチ教育プログラム第2サイクルの残り2テーマ及び筆記試験

● 低年齢の子供のためのスピードトレーニングの基礎

日程 : 4月21日(水) 講師 : ギュンツェル氏 参加者 : 27名

● 高齢者とのコミュニケーションとイベント運営上の留意点

日程 : 5月12日(水) 講師 : 一藤木氏 参加者 : 27名

● 筆記試験

目的 : 2年間で学んだ知識の中から現場の役に立つものを抜粋して暗記。

対象 : テニスコーチ 23名

日程 : 2010年4月7日(水) 説明会

2010年5月27日(水)筆記試験

90点以上を合格とした。(上位3名は倉持コーチ、松田コーチ、佐藤コーチ)

2010年7月14日(水)再試

備考：通常業務の合間を縫っての勉強が大変であったが、コーチ陣の頑張りが見られた。研修プログラムマネージャーは、フレームワークやルールなどの形式知を理解し、観点を持った状態で現場経験をつむことが「本物の知識を身につける上での一番の近道」であると信じている。

2. TTC コーチ教育プログラム第3サイクル

●生涯スポーツとしてのテニス

2010年

6月23日(水)7:45～ 講師：吉田理事長、一藤木氏 参加者：29名

●カリキュラムに基づいたオンコート実技

7月14日(水)7:45～ 講師：一藤木氏 参加者：28名

●論理的コミュニケーションの基礎

7月11日 講師：三森氏 参加者：39名

○ビジネス文書の書き方出し方

9月16日(水) 講師：板谷氏 参加者：32名

●日本の伝統的マナーとスポーツマンシップ

10月17日 参加者：38名

○JTIA テニスプロデューサー 講義

マーケティングの基礎

10月27日(水)7:45～ 講師：菅澤氏 参加者：30名

○JTIA テニスプロデューサー 講義

安全管理と顧客管理

11月24日(水)7:45～ 講師：山口氏 参加者：29名

●低年齢の子供における体力向上の特徴<

日程：12月15日(水)7:45～ 講師：ギュンツェル氏 参加者：28名

●低年齢の子供と高齢者における健康的食事学

12月19日(日)20:00～ 中止 講師：小澤礼子氏

●イベント運営におけるコミュニケーションの留意点

講師：一藤木氏 を下記に変更

● ハラスメントについて

講師：高橋剛氏 2011年 1月12日（水）7：45～ 参加者：30名

● シニアをトレーニングするときに考慮すべき身体能力的特長<4.4>

1月23日（日）20：00～23：00 講師：小澤多賀子氏 参加者：23名

● スポーツ傷害を予防しパフォーマンスを引き出す上部コアと下部コアの解剖学的理解

2月23日（水）7：45～ 講師：安見氏 参加者：33名

● 車いすテニスの基本テクニックと戦術<9.1><9.2>

3月9日（水）7：45～ 講師：丸山氏 参加者：31名

● 低年齢ジュニアのための基礎的コーディネーショントレーニング<4.2>

3月24日（水）7：45～ 講師：古澤氏 参加者：34名

3. MFA講習会

2010年

4月4日（日）4名認定

6月19日（土）5名認定

9月18日（土）9名認定

12月11日（土）12名認定

2011年

2月9日（水）6名認定 臨時

2月26日（土）3名認定

3月30日（水）8名認定 臨時

4. 応急処置試験

第2サイクル試験のため今年は中止。

5. アンチドーピングセミナー

日程：2010年5月1日（土）16：30～ 講師：福林徹先生 参加者：8名

F. その他

1. キャリアアップ教育受け入れ

松葉第一小学校

日程：10月22日（金）9：30～11：00 参加者：3名 担当：穂積氏

松葉第二小学校

日程：11月11日（木）10：00～12：00 参加者：5名 担当：古谷氏

2. 職場体験受け入れ

日程：10月28日、10月29日 両日8：30～16：00 参加者：4名 担当：安見氏

8. イベント事業

(1) イベント運営について

今年度も引き続きイベントディレクターの変更、整理、引き継ぎを行い、イベントの効率を高めていった。

イベントの告知、案内など大いにホームページの活用を行った。大会要項のホームページでの発表により、郵送費の節減を行うことが出来た。昨年に引き続き、大会使用球など消耗品の削減につとめ、今後、さらに効率よく進めていく。

(2) イベント、トーナメント総参加人数【2010年度】

ジュニアトーナメント	4973名	(2009年度 4828名)
ジュニアイベント	697名	(2009年度 1635名)
ジュニアキャンプ	60名	(2009年度 149名)
アダルトトーナメント	792名	(2009年度 3039名)
アダルトイベント	941名	(2009年度 864名)
車いすトーナメント	24名	(2009年度 20名)

II 総務部門

1. 企画

1) コンピュータシステム関連整備

(1) サービスエース(スクール管理コンピューターシステム)

新システム「サービスエース」が2008年2月にスタートし、バージョンアップやカスタマイズを重ね、スクールだけでなく、なくてはならないシステムとなっており、お客様の利用状況も12月に初めて80%を記録し目標の70%代をキープしている。

(2008年度平均 69.4%、2009年度平均 73%、2010年度平均 77.1%)

協賛企業や法人賛助企業などの情報もSAで管理できる体制も整いつつあり、20周年でかなり情報の整理もできてTTC全体の情報を集約してゆくところまでは来ているので、今後は入金を含めた管理もできるようにしてゆきたい。

また、今年度諸事情によりウィンドウズ7機を1台購入したが、XPのサポートが2014年までのため、今後PCの入れ替えの計画しており、BCセンターとも相談しながら入れ替えをしていきたいと思う。

システム全体としては、サーバの自動的に溜まっているSAバックアップファイルを週に1度削除し、負担がかからないようにしており、ファイルサーバの状況もほぼ毎日チェックは継続して行っている。

月に1度、BCセンターよりインターネットの出入り口にあたるフォーティゲートのレポートが来ており、何か異常があればすぐに連絡をもらえる体制も継続しており、セキュリティーについても慎重に対応している。

2)コート管理

(1)コート調整ミーティングの実施(毎月)

- ・3ヶ月先までのイベントコートの確認
- ・空きコートの状況を把握
- ・空き情報をもとに営業活動を実施。(大学サークルなど)

※定期的に利用してもらえるような団体や企業などを探すため、HPなどでの情報発信も行う。

(2)コート稼働率の推移

2008年(4月～09.3月実績) インドアコート 99.3% アウトコート 63.1% 全体 73.4%
(以前との比較のため 9:00～21:00 で算出)

2008年(4月～09.3月実績) インドアコート 81.2% アウトコート 46.7% 全体56.5%
(現在の実働時間 6:00～24:00 で算出)

2009年(4月～10.3月実績) インドアコート 100.8% アウトコート 67.9% 全体 77.3%
(以前との比較のため 9:00～21:00 で算出)

2009年(4月～10.3月実績) インドアコート 88.9% アウトコート 53.7% 全体 63.7%
(現在の実働時間 6:00～24:00 で算出)

2010年(4月～11.3月実績) インドアコート 86.5% アウトコート 55.0% 全体 64.0%
(現在の実働時間 6:00～24:00 で算出)

※震災によりかなりのキャンセルがあったが全体ではあまり数字は下がらなかった。

アウトドアコートは天候にも左右される(雨天中止2010年度2.1%)が、空きコートと埋める努力をすればまだ稼働を上げられる要はあり、更に効率的な使用を推進し稼働率アップを図っていく。

3) 消耗品、通信費などの節約

(1)コピー・通信費等の削減

①コピー用紙の裏紙利用と50枚以上の印刷については印刷機リソグラフの使用を徹底。

- ・各PCの通常印刷をモノクロに設定し、カラーは利用枚数を記入するようにする。

2008年4月～2009.3月 ¥1,911,444-

2009年4月～2010.3月 ¥1,393,279- 【対前年 ¥-518,165の削減】

2010年4月～2011.3月 ¥1,320,938- 【対前年 ¥-72,341の削減】

②電話代(NTT、NTTコミュニケーション、KDDI含む)の節約

2008年4月～2009.3月 ¥898,320-

2009年4月～2010.3月 ¥891,729- 【対前年 ¥-6,591の削減】

2010年4月～2011.3月 ¥889,182- 【対前年 ¥-2,547】

コピー、電話については節約の習慣が定着してきており、一定の効果が出ている。電話については通信業界そのものの変化に注意を払っていく必要があると思われる。

震災後、節電も最大限努力をしており、4月分の電気代が前年同月より約20万円マイナスになり、公益法人としても今後も貢献していきたい。

4) その他

(1)スタッフの身だしなみにも注意を払うべく、ネームカード、TTCワッペンを作成して着用を徹底している。

2. 広報 ビジュアル事業報告

1. 館内掲示物の維持管理および発行物の CI 管理

①掲示物

- ・ ‘10 年度も、随時トーナメントの入賞報告を掲示し、タイムリーな情報の伝達をしてきた。1 階のジュニア選手紹介コーナーの切替時期も 9 月のアクティブレスト期間での実施が定着しスムーズに切り替えが行えた。

②TTC ロゴ

- ・ 掲示物の統一感を持たせるため、同一データの TTC ロゴを添付していきませんが、オリジナルデータからのズレが生じており、ランガー氏の協力のもとデータ修正と再統一をした。

③スタッフボードおよびスタッフイントロダクションブック

- ・ スタッフボードとスタッフイントロダクションブックの更新を 3 月に実施した。
資格等の変更についても更新を確認し、ホームページとの連動を含めて実施した。

2. PR 活動

①ホームページの運営管理

- ・ 毎月、ホームページのアクセス解析、コンサルティングを受け、改善点の修正や見せ方のポイントなど改善を取り組んできた。また、キャンペーン時にはリスティング広告を実施し、ホームページからの新規獲得にも一定の効果を上げた。さらに、検索エンジンによる表示ランキングを上げるため、プログラムのバージョンアップに平行して、ブログページの構築とトップページのマイナーチェンジをおこなっており、情報伝達とお客様の使いやすさを更に上げていく。
- ・ TTC ホームページへのアクセス分析では、5 月の全国選抜 Jr. と 10 月のかしわオープン時のアクセス数が急激に増える特徴を持っています。この特徴に合わせた PR ページ作成も進めていく。
- ・ コーチ紹介ページのアップデートについては、十分に行うことができませんでした。注目度の高いページなので 2011 年度については工夫をし更新頻度を上げていく。
- ・ テニスディビジョンのイベントやスクールの情報については、迅速に実施することができている。
- ・ コンサルティングで指摘されている改善点については、一部実施できたものの、多くの改善ポイントが残っており、プログラムの更新と合わせて改善していく。

3. TTC 各イントロダクションの更新

- ・ 20 周年版の DVD を制作した。

4. TTC プログラム、イベント等におけるビジュアルサポート

- ・ 各種研修会を撮影し、活用した。
- ・ 各種ビジュアルデータをコーチ、選手に提供してきていく。
- ・ 15 年永年継続表彰の写真撮影および記念品作成をアシストした。

- ・その他、What's Tennis のパワーポイントバージョンを作成し、ミーティングで勉強会も実施してきている。

5. メディア対応および刊行物の記録

- ・取材対応を関係団体、部署と協力し対応し、TTC の PR も能動的におこなってきています。また、刊行物や放映された映像を記録保存してきていく。

6. TTC 20 周年記念事業

特に、TTC オープン 20 周年記念事業の中の記念誌製作に携わり、2010 年度の前半の殆どの仕事時間をこれに充てた。製作スケジュールの管理や手順等、次回に生かしていく。

2. 賛助会活動事業

(1) 賛助会（個人賛助会員、地方会員、法人会員）

2010 年度も賛助会による支援の結果、下記のようなことが実現できた。

- ・小和瀬望帆選手が I T F 世界スーパージュニアでシングルス準優勝。
- ・千村夏実選手が全国中学生大会で優勝。
- ・古川真実選手が全日本ジュニア 14 歳以下シングルスで優勝。
- ・村松千裕選手が全国選抜ジュニアテニス選手権大会 12 才以下で優勝。
- ・国枝慎吾選手がオーストラリアンオープンでシングルス 5 連覇、ダブルス 6 連覇達成する。
- ・指導者の育成面では、リチャード・シオンボーン氏、アン・クィーン氏など
トップクラスの指導者との交流。

(2) 現在賛助会員数

①個人賛助会員総数 570 名、 地方会員総数 51 名

法人賛助会員総数 31 社、 法人協賛企業総数 55 社

②新規賛助会入会者数 44 名(目標 50 名)

内クラブ入会者数 34 名(目標 40 名)

③ 2010 年度 10 年を越して支援頂いている方々個人賛助 14 名、地方会員 2 名の方に記念品をお送りした。

2. 2010 年度の状況

10 年を越えて賛助会を継続された方々（個人、法人）

	地方会員	個人賛助会員	法人会員
2005 年	21 名	46 名	13 社
2006 年	6 名	6 名	0 社
2007 年	5 名	9 名	3 社
2008 年	1 名	15 名	0 社
2009 年	3 名	13 名	0 社
2010 年	2 名	14 名	1 社

2010年度 賛助（法人・個人・地方会員）、協賛企業 総数

(2011. 3.31 現在)

法人賛助	31社
協賛企業	55社
賛助会員	570名
地方会員	51名

2010年度 新規入会者

3月 31日現在 合計 44名 (目標 50名)

テニス部門 33名 (目標 40名)

その他 (スタッフ・役員等) 8名 (目標 10名)

地方会員 0名

570名の内訳	ル・クラブ	297名
	ジュニア、プロ、車いす	64名
	外部 (業者関係、その他)	115名
	その他	94名

(スタッフ関係45名、PJT15名、役員関係34名)

(3)Le Club TTCが発足して9年目になるが、個人賛助会員570名の中、297名の方々がクラブに入会されている。日頃TTCをご利用頂いている方々にTTCの活動をご理解頂き、賛助会に入会(クラブ入会)いただいた。

(4)賛助会員対象イベント

・初打ち大会	【2010年度 230名】
・ゴルフコンペ (年4回)	【2010年度 139名】
・TTC サマーパーティー	【2010年度 231名】
・Les Plus Jeunes (毎月 2回、年21回)	【2010年度4986名】
・Vent Vert 大会 (年2回)	【2010年度 406名】
・Le Club TTC 練習会	【2010年度3276名】
・「サマー」「年忘れ」 ミッドナイトダブルス	【2010年度 66名】

ヴォランティア活動

(1) 2010年度も下記のような内容で138名の方々の協力を頂いている。

- ・ヴァンペールでの花の飾りつけ (年2回 4月、9月)
- ・チームジャルダンのガーデニング (随時)

- ・お早うキッズテニス (毎週)
- ・ピョピョ親子ショートテニス教室 (年4回)
- ・ジュニアトーナメント等の大会運営 (随時)
- ・JWTA マスターズ運営、送迎 (12月)
- ・KAZUKO 杯の集客、運営 (12月)
- ・ピーナツカップの運営、ロービング (12月)
- ・バラの手入れ
- ・柏市巡回教室 (年6回)・その他

※各イベント、トーナメント等の終了後にヴォランティアの方々との意見交換をし、改善するなどし、次回につなげている。

(2) 2010年度 講習会

① ヴォランティア講習会の実施

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 応急処置の実習 | 【2010年実績 15名】 |
| 2. バラの手入れ 実習 | 【2010年実績 7名】 |
| 3. ピョピョ親子ヴォランティア講習会 | 【2010年実績 年3回 64名】 |

② 活動の案内、報告

1. インフォメーションボードの活用
2. TTC ニュース等での報告

※年間を通じて多くのイベント、トーナメントを始め色々な面でヴォランティアの方々にご協力頂いているが上記のような講習会を定期的に繰り返すことで質の向上に繋がっている。特に応急処置の実習については、夏の大会などに実際に役にたったなど保護者等からの意見が聞かれた。

4. 施設管理

1) コートの補修について

(1)アウトドアコート

①2010年度は勾配が1%を超えた9番10番コートを、中央からブリッジ側半分を基礎から掘り起こし、地盤沈下への対応として重量を押さえるやめ基礎に発泡材を入れる工法での大規模改修工事を行った。

工事中降雨により発泡材が浮き上がるというアクシデントがあったが、無事終了した。

3月11日の東日本大震災で中央に亀裂が入ったが、結果的に発泡材を使った工法によりこの程度で済んだと思われる。

②鉄杭を打ち込み工事をした5, 6番コートは短いサイクルで膨らみが出ており、そのつど補修をしている。こちらも震災による影響も多少あったが、今後も注意しながら補修をしていく必要がある。

(2)インドアコート

①2010年度も2回コート洗浄を行い綺麗に保たれているが、震災の影響で通路側や基礎廻

りに亀裂が入り、補修で対応しているが、ボール倉庫が陥没しており今後注意が必要である。

②照明については2008年度増灯の工事後問題ないがランプの消耗を見るため、定期的な照度測定を行っていく。

③天井の断熱材のハガレの修理を3回行った。コスト削減も兼ねて業者への依頼ではなく、高所作業車をレンタルしてこちらで行うことが可能となり、工法の工夫も検討しながら定期的な補修が必要である。

(3)専門業者による定期的な確認、メンテナンスの実施

- ①防災関係 (年1回 5月) ユニオン防災
- ②電気関係 (月 1回) 宮島電気
- ③館内清掃 (年2回 5月、11月) 日本不動産管理 (その他業者も検討)
- ④バラの剪定 (年1回 1月) 京成バラ園

(4)その他

- ①リチャード・シオンボーン広場完成。
- ②各看板の新設設置。
- ③芝の植栽
- ④ウッドデッキ・グリーンハウス新設。

5. プロショップ事業

	予算	2010実績	2009実績	予算比	前年比
売上	¥23,000,000	¥24,363,000	¥22,413,000	106%	109%
仕入	¥17,000,000	¥18,608,000	¥18,999,000	109%	97.9%
利益	¥6,000,000	¥5,755,000	¥3,414,000	96%	168.6%

1. 本年度の売上要因

アイテム別売上

	数量	売上
ラケット	400	¥7,000,000
ストリング	2300	¥5,000,000
シューズ	600	¥4,000,000
ウェア	1000	¥4,000,000
アクセサリ	2000	¥3,000,000

各アイテム平均的に売上が取れた事と各月毎の売上状況から週毎に対策を立案した事が売上に繋がった。

2. 月ベースの売上状況

好調月・・・5、6、7、8、9、12、1、3

不調月・・・4、10、11、2

全ての月において目標数値でほぼ推移していた。不調月であっても5～10万円程度のマイナスで抑えられた。

3.好調要因

①バースデーカードによる販売促進

ラケット売上 64 万/34 件

シューズ売上 67 万/74 件

②バボラシューズ試履期間の実施

バボラシューズ売上 80 万/118 足

③ガット張り替えキャンペーン期間でのフルタイムコーチのヘルプ

年間3回の売上 125 万/460 本

総評

厳しい商売の中で、常に売れ筋商品を探すなどメーカーとのコミュニケーションあつての2010年度であった。

これからは、現場の強みであるコーチの販売力に期待している。現状のコーチの販売活動は、試打会とガット張り替えキャンペーンに偏りがちである。今後の課題は、通年での販売力である。

6. フロント業務

目 標

《親しみのある接客》

笑顔で挨拶をするから始まり、お客様へのお声がけも可能な限り心がけた。

結果、それぞれのお客様の喜びや悩みなど抱えている思いを知る事ができた。

またお客様のお問合わせ・要望など満足頂ける対応をして感謝の声も聞けた。

《提案型の接客》

ルールに基づき No という接客から、提案する接客を目指した。

提案をする事により、お客様の要望がいくつかの選択肢によって解決され、満足頂ける接客に繋がった。

まだ弱い部分はあるものの、ショップ商品の知識や在庫の把握する事で提案型の接客を目指した。また消費意欲のあるお客様には、別の商品のご案内など自然な形でアプローチを心がけた。お客様にも喜んで頂き、ショップ商品のシューズ・ウェアや小物の売り上げに貢献ができた。

《見極めの能力》

少しずつ予測をたてられる接客になってきた。

お客様が気持ち良く過ごしていただけるよう、引き続き目配り気配り心配りのある接客を目指していく。

計 画

① フィロソフィー

月曜日～金曜日のブリーフィングにて、読み上げを実施した。
繰り返す事でスタッフの暗記ができてきた。
またフィロソフィーに基づいて、少しずつ各々が動けるようになってきた。
経費削減に協力する姿勢や、フロント周辺の整理整頓、トイレの美、続ける意識、完璧というにはまだだが、今後も取り組んでいく方向である。

② 教育プログラムと外部研修

TTCの教育プログラム(論理的コミュニケーションと日本の伝統的マナー)にフロントスタッフも参加をした。
実際の活用例としては、接客時にお客様とのコミュニケーションを図る際、より理解をしていただく為、わかりやすい言葉・より簡潔な説明で話をする事を心がけた。
また入会をされるお客様には、現在「案内と注意事項」の書面を基に説明をしているが、すべての説明を一度に伝えてもお客様に伝わりにくい(長文の為)ので、口頭の部分と読んで頂く部分をわけするなど、ポイント重視の案内を検討中。
マナーではブリーフィング時、正しく立つ姿勢からお辞儀までを参加者全員で取り組んだ。
フロントデスクでお客様と話をする場合は、会話の内容によるが、表情に笑みを交え、親身になって話す事で会話の内容も変わりテニスのレベルの話や家族の話、お客様のラケットや服装によってはイベントやセールの話など、徐々に親しみやすい雰囲気が出来てきた。

③ サービスエースの活用

2010年9月より家族割引・複数割引を増やした事により、サービスエースのシステムをバージョンアップした。
追加割引により作業的にはやや効率が悪くなり、お客様からも記入書類が多い事へのご意見を頂くなどしたが、説明の上ご理解頂く事ができた。

Webの利用率では2009年度に比べると、やや上がった数字となった。

2009年度		2010年度	
年間平均利用人数	64%	年間平均利用人数	65%
年間利用回数	73%	年間利用回数	76%

④ メディックファーストエイド

ライセンスの期限のタイミングでフロント全員講習を受け続けた。
またフロントミーティングで救急車要請の訓練をし、流れを確認した。
対応マニュアルも新たに作成し、病院先と診療時間、救急対応可能な病院と地図など細かくわかるよ

うにした。(フロントだけではなくコーチルームにも常備)。

現場とフロントはコミュニケーションを図りながら、敏速で的確に対応をする事を今後も目指していく方向である。

今年度の救急車要請は1件、外部の方が施設内で転倒してしまった為だが、現場スタッフとフロントが敏速に的確な行動で対応が出来た。

⑤ 情報の共有と発信

<ブリーフィング>月曜日から金曜日、毎朝行う朝礼。(コーチと総務とフロント)

- ・正しい姿勢であいさつ。
- ・キャンペーン中の確認と当日コート of 状況報告。
- ・イベントの集客数の報告。
- ・当日来られる体験レッスンの時間・クラスを報告・人数を報告。
- ・前日来られた体験レッスンのお客様の感想やご入会の有無などの報告。
- ・前日お買い上げ頂いた(シューズ・ラケット・スキンズ) お客様のお名前を報告。
- ・ユーザーズボイスやお客様チェックシートの報告と経過。
- ・ジュニア・車いすプレーヤーズ選手の試合結果報告。
- ・来客予定とスタッフの出張/遠征予定の確認。
- ・レベルアップ・フューチャーズの体験やゲスト確認。

昨年度に比べるとスタッフの発言回数も増え、ポジティブな内容から厳しい注意まで幅広いコミュニケーションの場となりつつあり、今後もスタッフ間での情報の共有を図り、お客様の満足につながるようフロントが中心となり促していく。

⑥ お客様チェックシート(即スタッフが記入し情報を伝えるシート)

現場でおきた出来事を記入し、担当コーチやフロントがフォローをしながら、最終解決する所で完了。所長・AGMにコピーで報告。

2010年度は合計52件の報告があった。

- ・怪我・体調不良の報告 → 40件(解決済)
- ・サービス面でのご意見・クレーム → 5件(解決済)
- ・その他の報告 → 7件(解決済)

眼の怪我は8件報告された。フォロー体制が重要で、重症な場合は長期にわたる為定期的にお客様とのコミュニケーションが要求された。

また記入シートの改善やTTCnet内で閲覧できる方法など、報告しやすく情報の共有が図りやすい環境を検討していく方向である。

⑦ ユーザーズボイス

お客様からサービスエスweb内に問い合わせ・クレーム・サンキューなどが届き、担当コーチやフロントがフォローをしながら、最終解決する所で完了。所長・AGMにコピーで報告。

2010年度は合計22件あった。

- ・ <お問合わせ> アダルト 4 件(解決済) ・ ジュニア 3 件(解決済)
- ・ <要 望> アダルト 4 件(解決済) ・ ジュニア 1 件(解決済)
- ・ <サンキュー> アダルト 3 件(解決済) ・ ジュニア 1 件(解決済)
- ・ <クレーム> アダルト 5 件(解決済) ・ ジュニア 1 件(解決済)

即日コーチからの対応、場合によってはフロントから直接お電話するなどスピーディな解決につながった。

⑧ 総括

2010年度は新体制(組織図)で、かなり戸惑いながらスタートした。

夏には社員1名の休職とパートスタッフの採用、年末にはパートスタッフの退職と人員の入れ替わりがあった。

担当業務を変更で引き継ぎなどの作業をし、新担当にも積極的に取り組む姿勢があった。

そして業務の共有が図れ、この様な状況な中でも無事2010年度を終えられたのは、個人の努力とフロントスタッフの団結力かと思う。

TTCイベント「初打ちテニス・TTCチャンピオンシップス・サマーパーティー・忘年会」は、可能な限りフロント全員が参加をした。

賛助会員の方と多くコミュニケーションを図れる初打ちテニスでは、フロントスタッフもテニス参加し、食事の係でも多くのお客様とお話をして、顔と名前を覚えるきっかけになった。

夏季シーズンは熱中症対策として1日3回(朝・昼・夕方前)WBGTを測定し、コーチにも把握してもらう為に、コーチルームの表に毎日記入をした。

大会期間中は本部にも報告結果、熱中症での救急車要請は今年度0件だった。

2010年はTTC20周年の年であり記念のワッペンを身につけ、お祝モードと感謝の思いでフロントに立ち、お客様からも多くのお言葉を頂き、思い出に残る記念すべき年であった。

7. その他

(1) ITF男子フューチャーズ2009 TTC柏オープン開催

日時:10月9日～11日 予戦

10月12日～17日 本戦 シングルス32ドロー、ダブルス16ドロー

※観客動員数が470名と過去最高の昨年よりかなり減少。予予戦、予戦とジュニア選手の参加も多くなり今後に期待が持てる。

特別協賛橋本総業(株)様、空旅ドットコム(株)様により、わずかであるが収支プラスとなったが、チケット販売の落ち込みが懸念される。

(2) 国際交流について

◇第23回TTCテニス指導者のためのスポーツ科学セミナー

テーマ : 「ジュニアステージ後半のための現代的テニストレーニング」

講師 : リチャード・ショーン・ボーン氏 ドイツ

(3) 財日本テニス協会・社日本プロテニス協会・社日本テニス事業協会・日本女子テニス連盟及び日本車いすテニス協会等各テニス団体との協力と交流。

JTA ナショナルチームメンバー、海外からの ATP・WTA ランカーの施設利用、専門委員会・各地域協会・都道協会の行事消化についても協力した。

★日本テニス協会・関東テニス協会・千葉県テニス協会ベテラン委員への役員派遣。

★関東テニス協会ジュニア委員会、千葉県テニス協会及びジュニア委員会への役員派遣。

★関東テニス協会ジュニア委員会、千葉県ジュニア委員会主催大会へ役員・運営委員派遣。

★関東テニス協会公認大会

・関東ジュニアツアー

・TTC ジュニア18歳・16歳・14歳・12歳各年齢別、

・ヨネックスカップ18歳・16歳・14歳・12歳各年齢別)

・柏ジュニアテニス選手権大会の主催。

★千葉県テニス協会ジュニア委員会強化委員としてニュージーランド海外遠征に帯同。

★千葉県ジュニア委員会主催大会(千葉県ジュニアテニストーナメント、ジュニアサマーテニストーナメント、のびす大会)へのコート及びセミナールーム利用提供。

(3) 財日本テニス協会・社日本プロテニス協会・社日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟、日本車いすテニス協会、中学・高校・大学関係、テニス学会、民間テニスクラブ、諸テニス団体とも交流を図り、講師派遣を含めイベント・トーナメント等にも施設使用の協力関係を進めた。

・全日本選抜ジュニアテニス選手権大会の開催

・男子フューチャーズかしわオープンの開催

・スポーツ科学セミナーの開催(全国5地域)

・JWTA マスターズの開催

・マナーキッズテニスの協力

・各種セミナー開催

(4) 当センターとしては『公益財団法人』の認定に向け、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)の指導もと、情報収集に努め 2011 年 1 月に申請し、現在認定待ち。

(5) その他

① TTCチャリティーウエルフェアの開催

日時:11月28日～12月11日 内容:バザーの開催 ラッフル券の販売

※収益金をジュニア基金、車いすすみれ基金として、そして下記各種団体へ寄附を行う。

② 各種団体への募金活動

各種イベントやトーナメント等の提供を通して、社会還元及び地域への貢献活動を推進する。

◇財団法人 日本ユニセフ協会 【50,000円】

... KAZUKO 杯・JWTA マスターズ・チャリティーダブルス・年末時のTTCウエルフェア

◇アーサーアッシュ・エイズ撲滅財団 【50,000円】

... KAZUKO 杯・JWTA マスターズ・チャリティーダブルス・年末時のTTCウエルフェア

◇財団法人 世界自然保護基金(WWF) 【50,000円】

... 年末時のTTCウエルフェア

- ◇乳癌撲滅啓蒙運動 【46.000円】
... レディースチームテニストーナメント開催時
- ◇千葉県テニス協会・ジュニア委員会 【100,000円】
... ピーナッツカップ柏ジュニアテニス選手権大会

以上